

「ロシア、ウクライナに侵攻する」

2022年02月28日

24日、ロシアはウクライナに電撃的に侵攻した。21世紀のグローバル化時代に、他国を軍事侵攻するようなことが起こったことに驚愕した。ずいぶん前から、十数万のロシア軍がウクライナを取り囲んでいると報道されていた。しかし、国境を越えて、侵攻はあり得ないと思っていた。ロシアのプーチン大統領は、東のドンバス地方の親ロシア人がウクライナ政権にいじめられ、大量虐殺が行われているので、親ロシア人保護のために、平和維持軍を送り込むと言っていた。ドンバス地方でどのような大量虐殺が行われていたのかは知らないが、軍隊が国境を越境することは、相手国への主権侵害である。ところが現実には、東はロシアから、北は、ロシアの言いなりのルカシェンコ大統領が独裁的に支配するベラルーシから、南は、2014年に軍事侵攻によって併合したクリミアからの三方から、ウクライナ全土の軍事施設をミサイルや空爆で破壊し、防空能力を奪い、制空権を獲得した。驚くような機敏さで、ウクライナの戦闘力を奪ってしまった。プーチンは狂気に走ってしまったと言わざるを得ない。ロシアとウクライナの軍事力は、プロレスラーと子どものような差がある。ウクライナはNATO（北大西洋条約機構）に入ることを望んでいた、現在のゼレンスキー大統領になった。現在は加盟していないので、NATOの支援はない。米国は当初から軍事介入はしないと明言していた。どの国からの支援もないので、ロシアによる首都キエフの陥落、全土の掌握は時間の問題であろう。その間、どれだけの人の命が奪われるだろうか。ウクライナの人々の恐怖と不安はいかばかりかと思う。戦禍から逃れようと、西のポーランドを目指す人々は混乱の極みにある。

武力攻撃をせず、互いを尊重し合うところに良好な国際関係が維持できる。それを、一方的に破ったのだから、認められることではない。多くの国々は国際法違反のロシアを非難している。しかし、その非難がどれほどの効果を持っているのか。経済制裁は、ロシアの場合、その効果が期待できないとの分析も聞く。

ロシアは、NATOの勢力がウクライナまで来ると、自国の安全と国民の命が守れないと言う。ウクライナにロシアを攻撃するNATOの基地ができることを怯えている。ベラルーシのようなロシアの言いなりの政権の樹立を目指しているらしい。NATOへの加盟の是非は、ウクライナが主体的に決めることで、EU（欧州連合）や米国が口出しすることではないと思うが、国際政治は、そう単純ではないらしい。

ロシアのウクライナ侵攻は、強権国家と民主国家の争いとなっている。最近、強権国家と民主国家が比べられ、強権国家の方が、権力の号令で物事が迅速に進み、効率がよいという評価もある。しかし、ミャンマーを見て、一度自由を体験したら、その喜びは忘れることはなく、命を失っても、自由を求めるものだと言われた。事柄を決めるのに時間がかかっても、自由な議論を積み重ね、人々の合意を得て進める方がよい。人間は自由で、他者と分かち合って生きるように創造されているのではないか。

ロシアのウクライナ侵攻によって、日本では二つのことが起こるであろう。ロシアへの経済制裁は、返り血を浴び、日本の経済も傷つくであろう。物価の上昇ということを実感しなければならない。もう一つは、ロシアのような理不尽を押し通す国があるのだから、自衛準備が必要である。憲法を改正し、軍備増強は必須であるという議論が盛んになるだろう。心して、平和への視点をゆるがせにはならないと思っている。

軍事的侵略は断じて許容できない。ロシアの世界からの孤立は避けられず、プーチン非難は収まらないだろう。戦争が収まるように、世界の良心と知性を結集したい。